



2020年12月期 決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年2月12日

上場会社名 株式会社Aiming 上場取引所 東
 コード番号 3911 URL <http://aiming-inc.com/ja>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 椎葉忠志
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部 (氏名) 田村紀貴 (TEL) 03(6672)6159
 定時株主総会開催予定日 2021年3月30日 配当支払開始予定日 —
 有価証券報告書提出予定日 2021年3月30日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期の業績(2020年1月1日~2020年12月31日)

(1) 経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期	11,903	110.9	1,673	—	1,653	—	1,693	—
2019年12月期	5,644	△22.8	△871	—	△875	—	△1,201	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年12月期	44.36	43.93	55.6	36.9	14.1
2019年12月期	△34.06	—	△90.5	△24.6	△15.4

(参考) 持分法投資損益 2020年12月期 一百万円 2019年12月期 一百万円

(注) 2019年12月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため、記載していません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年12月期	6,712	4,988	74.3	126.06
2019年12月期	2,249	1,107	49.2	31.23

(参考) 自己資本 2020年12月期 4,988百万円 2019年12月期 1,107百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年12月期	1,787	38	1,805	4,493
2019年12月期	△829	△137	△1,082	860

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
2019年12月期	円 銭 0.00	百万円 —	% —	% —				
2020年12月期	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	—	—	—
2021年12月期(予想)	—	—	—	—	—	—	—	—

3. 2021年12月期の業績予想(2021年1月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純 利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第1四半期	3,339	199.1	408	—	362	—	345	—	8.72

(注) 当社は、スマートフォンを中心としたオンラインゲーム事業を展開しており、短期的な変化が激しいことなどから、業績の見通しにつきましては適正かつ合理的な数値の算出が困難であるため、四半期ごとの決算短信発表時に翌四半期の業績見通しを公表させていただきます。

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(2) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年12月期	39,573,100 株	2019年12月期	36,233,600 株
② 期末自己株式数	2020年12月期	0 株	2019年12月期	781,500 株
③ 期中平均株式数	2020年12月期	38,170,661 株	2019年12月期	35,264,722 株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「今後の見通し」をご覧ください。

・当社は、2021年2月12日（金）に機関投資家及び証券アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料、動画等につきましては、開催後当社ホームページ（<http://ir.aiming-inc.com/>）に掲載致します。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	2
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	3
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	3
3. 財務諸表及び主な注記	4
(1) 貸借対照表	4
(2) 損益計算書	6
(3) 株主資本等変動計算書	8
(4) キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(会計方針の変更)	11
(表示方法の変更)	11
(セグメント情報等)	11
(持分法損益等)	11
(1株当たり情報)	12
(重要な後発事象)	13

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当事業年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による国内外経済の先行きの不透明さから、厳しい状況が続きました。

このような状況の中、国内のスマートフォン向けオンラインゲーム市場は、成長率は鈍化しているものの、緩やかな拡大が続くものと予想されます。一方で、知名度の高いIP（Intellectual Propertyの略）を題材としたゲームや品質の高い海外企業のゲームが国内でサービスを開始するケースも多く、競争の激化は続いております。また、国内外の品質の高いゲームが市場に投入されることで、お客様の求めるゲーム品質も高まっていることから、ゲームの開発期間は長期化し、開発費用も高騰しております。

当社におきましては、オンラインゲーム事業のさらなる成長及びシェアの拡大を目指し、サービス中タイトルの拡充と開発中タイトルの準備を進めてまいりました。

サービス中タイトルにつきましては、『剣と魔法のログレス いにしえの女神』がサービス開始から7周年を、『CARAVAN STORIES』がサービス開始から3周年を迎えました。両タイトル共に長期運営のため、経年によるKPIの低下はみられますが、有名IPとのコラボレーション等により、アクティブユーザー数及び課金ユーザー数の改善に取り組みました。

開発中タイトルにつきましては、2020年7月16日に、株式会社スクウェア・エニックスとの共同開発タイトル『ドラゴンクエストタクト』のサービスを開始しました。このほかに、株式会社ビーグリーが発表したスマートフォンゲーム『無職転生〜ゲームになっても本気だす〜』の開発・運営を担当するなど、オンラインゲーム制作/運営受託において、新規案件の獲得に取り組みました。

売上高は、『ドラゴンクエストタクト』が好調に推移した結果、前事業年度に比べて増加しました。費用面においては、台湾スタジオの従業員数削減、大阪スタジオの譲渡等により大きく減少した結果、営業利益、経常利益、当期純利益ともに、前事業年度に比べて増加し、黒字転換させることができました。

以上の結果、当事業年度における売上高は11,903百万円（前期比110.9%増）、営業利益は1,673百万円（前期は営業損失871百万円）、経常利益は1,653百万円（前期は経常損失875百万円）となり、当期純利益は1,693百万円（前期は当期純損失1,201百万円）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

資産につきましては、前事業年度末に比べ4,463百万円増加し、6,712百万円となりました。これは主として、現金及び預金の増加3,633百万円及び売掛金の増加573百万円によるものであります。

負債につきましては、前事業年度末に比べ582百万円増加し、1,723百万円となりました。これは主として、長期借入金(1年内含む)の減少375百万円があったものの、未払金の増加282百万円、未払法人税等の増加290百万円及び未払消費税等の増加234百万円によるものであります。

純資産につきましては、前事業年度末に比べ3,881百万円増加し、4,988百万円となりました。これは主として、資本金の増加977百万円及び資本剰余金の増加977百万円及び当期純利益の計上等による利益剰余金の増加1,565百万円によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度における現金及び現金同等物は前事業年度より3,633百万円増加し、4,493百万円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって増加した資金は1,787百万円(前年同期は829百万円の減少)となりました。これは主として、売上債権の増加573百万円があったものの、税引前当期純利益1,653百万円を計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって増加した資金は38百万円(前年同期は137百万円の減少)となりました。これは主として、敷金及び保証金の回収による収入46百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって増加した資金は1,805百万円(前年同期は1,082百万円の減少)となりました。これは主として、長期借入金の返済による支出375百万円があったものの、株式の発行による収入1,942百万円及び自己株式の処分による収入232百万円によるものであります。

(4) 今後の見通し

当社は、スマートフォンを中心としたオンラインゲーム事業を展開しており、短期的な変化が激しいことなどから、業績の見通しにつきましては適正かつ合理的な数値の算出が困難であるため、四半期ごとの業績発表時に翌四半期の業績見通しを公表させていただきます。

なお、2021年12月期の業績予想(2021年1月1日～3月31日)につきましては、サマリー情報をご覧ください。

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、第2四半期累計期間まで継続して営業損失、経常損失、四半期(当期)純損失を計上しました。こうした状況により、第2四半期まで継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しており、これらの事象又は状況に対処すべく対応策を実施いたしました。

2020年7月16日に株式会社スクウェア・エニックスとの共同開発タイトル『ドラゴンクエストタクト』の正式サービスを開始し、第3四半期以降の売上高が、高い水準で推移しました。本タイトルにつきましては、翌事業年度も、継続して業績に貢献することが見込まれております。

また、サービス中タイトルの減少と開発中タイトルの本数を鑑み、台湾スタジオの従業員数の最適化を実施しました。さらに、2020年4月1日を効力発生日として、株式会社ドキドキグループワークスへ大阪スタジオを譲渡しており、人件費や拠点維持にかかる費用が削減された結果、当事業年度末において、営業利益、経常利益、当期純利益を計上しております。

財務面につきましては、第3四半期累計期間までに、2020年3月6日に発行した第7回新株予約権のすべての行使が行われ、2,118,534千円の資金を調達し、手元資金の状況は改善されました。なお、手元資金の状況は改善されたものの、ゲームタイトルの開発やサービス中タイトルの運営には多くの資金を必要とするため、今後も市場の状況を鑑みながら、必要に応じて様々な資金調達方法を検討してまいります。

以上を踏まえ、当事業年度末において、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は、解消したと判断しております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は、財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で財務諸表を作成する方針であります。

なお、国際財務報告基準(IFRS)の適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当事業年度 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	860,225	4,493,675
売掛金	643,113	1,216,838
商品	1,341	1,205
仕掛品	76,098	68,513
コンテンツ	109,044	60,974
貯蔵品	258	244
前払費用	83,635	104,025
未収入金	60,171	136,709
前渡金	802	3,465
その他	42	101
貸倒引当金	△77	△32
流動資産合計	1,834,655	6,085,721
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	0	0
機械及び装置（純額）	0	0
工具、器具及び備品（純額）	1,918	4,676
有形固定資産合計	1,918	4,676
無形固定資産		
ソフトウェア	481	—
無形固定資産合計	481	—
投資その他の資産		
関係会社株式	2,994	2,994
繰延税金資産	—	309,319
敷金及び保証金	409,131	309,659
投資その他の資産合計	412,126	621,973
固定資産合計	414,526	626,650
資産合計	2,249,181	6,712,372

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年12月31日)	当事業年度 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	63,325	121,195
1年内返済予定の長期借入金	375,180	—
未払金	283,575	566,274
未払費用	75,306	98,714
未払法人税等	30,093	320,815
未払消費税等	74,073	308,499
前受金	148,380	120,265
預り金	16,681	75,083
その他	0	—
流動負債合計	1,066,618	1,610,847
固定負債		
長期未払金	75,065	112,849
固定負債合計	75,065	112,849
負債合計	1,141,683	1,723,697
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,304,854	4,282,242
資本剰余金		
資本準備金	3,294,854	4,272,242
資本剰余金合計	3,294,854	4,272,242
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△5,130,824	△3,565,811
利益剰余金合計	△5,130,824	△3,565,811
自己株式	△361,386	—
株主資本合計	1,107,498	4,988,674
純資産合計	1,107,498	4,988,674
負債純資産合計	2,249,181	6,712,372

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当事業年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
売上高	5,644,135	11,903,826
売上原価	2,488,875	4,165,795
売上総利益	3,155,259	7,738,030
販売費及び一般管理費	4,026,608	6,064,058
営業利益又は営業損失(△)	△871,349	1,673,972
営業外収益		
受取利息	288	210
受取手数料	3,603	977
補助金収入	6,838	423
備品売却収入	—	1,972
その他	2,016	308
営業外収益合計	12,745	3,891
営業外費用		
支払利息	8,264	1,288
為替差損	4,324	16,191
株式交付費	3,525	6,835
支払手数料	260	1
その他	28	192
営業外費用合計	16,403	24,509
経常利益又は経常損失(△)	△875,007	1,653,353
特別利益		
固定資産売却益	12	—
新株予約権戻入益	14,400	—
特別利益合計	14,412	—
特別損失		
固定資産除却損	198	—
減損損失	200,308	—
特別退職金	119,471	—
特別損失合計	319,979	—
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	△1,180,574	1,653,353
法人税、住民税及び事業税	20,771	269,321
法人税等調整額	—	△309,319
法人税等合計	20,771	△39,998
当期純利益又は当期純損失(△)	△1,201,345	1,693,351

製造原価明細書

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)		当事業年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 労務費	※1	1,296,714	48.05	949,771	22.48
II 経費		1,401,941	51.95	3,275,314	77.52
当期総製造費用		2,698,655	100.00	4,225,085	100.00
期首仕掛品たな卸高		187,150		76,098	
合計		2,885,805		4,301,184	
期末仕掛品たな卸高		76,098		68,513	
他勘定振替高	※2	322,159		67,141	
当期製品製造原価		2,487,548		4,165,529	
期首商品たな卸高		1,290		1,341	
当期商品仕入高		1,378		130	
合計		2,490,217		4,167,001	
期末商品たな卸高		1,341		1,205	
当期売上原価		2,488,875		4,165,795	

(注) ※1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
業務委託料	781,220	700,167
コンテンツ償却費	273,114	115,211
ロイヤリティ	49,396	2,228,990
消耗品費	29,126	22,725
サーバー費	23,636	21,264
地代家賃	200,802	174,693

※2 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
コンテンツ	322,159	67,141
計	322,159	67,141

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	2,929,863	2,919,863	—	2,919,863	△3,896,719	△3,896,719	△404,160	1,548,845	
当期変動額									
新株の発行	374,991	374,991	—	374,991	—	—	—	749,983	
当期純損失(△)	—	—	—	—	△1,201,345	△1,201,345	—	△1,201,345	
自己株式の処分	—	—	△32,759	△32,759	—	—	42,774	10,015	
自己株式処分差損の振替	—	—	32,759	32,759	△32,759	△32,759	—	—	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	
当期変動額合計	374,991	374,991	—	374,991	△1,234,105	△1,234,105	42,774	△441,347	
当期末残高	3,304,854	3,294,854	—	3,294,854	△5,130,824	△5,130,824	△361,386	1,107,498	

	新株予約権	純資産合計
当期首残高	14,400	1,563,245
当期変動額		
新株の発行	—	749,983
当期純損失(△)	—	△1,201,345
自己株式の処分	—	10,015
自己株式処分差損の振替	—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△14,400	△14,400
当期変動額合計	△14,400	△455,747
当期末残高	—	1,107,498

当事業年度(自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	3,304,854	3,294,854	—	3,294,854	△5,130,824	△5,130,824	△361,386	1,107,498
当期変動額								
新株の発行	977,388	977,388	—	977,388	—	—	—	1,954,776
当期純利益	—	—	—	—	1,693,351	1,693,351	—	1,693,351
自己株式の処分	—	—	△128,338	△128,338	—	—	361,386	233,047
自己株式処分差損の振替	—	—	128,338	128,338	△128,338	△128,338	—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—
当期変動額合計	977,388	977,388	—	977,388	1,565,013	1,565,013	361,386	3,881,176
当期末残高	4,282,242	4,272,242	—	4,272,242	△3,565,811	△3,565,811	—	4,988,674

	新株予約権	純資産合計
当期首残高	—	1,107,498
当期変動額		
新株の発行	—	1,954,776
当期純利益	—	1,693,351
自己株式の処分	—	233,047
自己株式処分差損の振替	—	—
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	—	—
当期変動額合計	—	3,881,176
当期末残高	—	4,988,674

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当事業年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	△1,180,574	1,653,353
減価償却費	32,435	1,656
コンテンツ償却費	273,114	115,211
減損損失	200,308	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	77	△45
新株予約権戻入益	△14,400	—
受取利息	△288	△210
支払利息	8,264	1,288
特別退職金	119,471	—
売上債権の増減額(△は増加)	250,638	△573,724
たな卸資産の増減額(△は増加)	△271,137	△59,407
仕入債務の増減額(△は減少)	△58,978	57,869
未払金の増減額(△は減少)	△283,611	287,016
未払消費税等の増減額(△は減少)	△41,819	234,425
その他	243,110	126,569
小計	△723,386	1,844,003
利息及び配当金の受取額	288	210
利息の支払額	△7,789	△1,024
補助金の受取額	6,838	423
特別退職金の支払額	△84,780	△33,731
法人税等の支払額	△20,771	△21,980
営業活動によるキャッシュ・フロー	△829,600	1,787,900
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△75,215	△6,147
敷金及び保証金の差入による支出	△187,067	△697
敷金及び保証金の回収による収入	165,854	46,255
資産除去債務の履行による支出	△40,600	△6,650
事業譲渡による収入	—	5,645
その他	△270	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△137,299	38,404
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	746,457	1,942,984
長期借入金の返済による支出	△1,838,520	△375,180
新株予約権の発行による収入	—	5,730
自己株式の処分による収入	10,015	232,274
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,082,047	1,805,809
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,352	1,335
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,047,594	3,633,449
現金及び現金同等物の期首残高	2,907,820	860,225
現金及び現金同等物の期末残高	860,225	4,493,675

(5) 財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(キャッシュ・フロー計算書)

前事業年度において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示していた「未払金の増減額(△は減少)」「未払消費税等の増減額(△は減少)」は、当事業年度において、重要性が増したため、区分掲記しております。

また、前事業年度において、区分掲記していた営業活動によるキャッシュ・フローの「補助金収入」は、当事業年度において、重要性が乏しくなったため、「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に表示していた△75,481千円は、「未払金の増減額(△は減少)」△283,611千円、「未払消費税等の増減額(△は減少)」△41,819千円、「その他」249,949千円として組み替えたうえで、「補助金収入」に表示していた△6,838千円は、「その他」として組み替えております。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

当社は、オンラインゲーム事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当事業年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
1株当たり純資産額	31.23円	126.06円
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額(△)	△34.06円	44.36円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	—	43.93円

- (注) 1. 前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当事業年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額		
当期純利益金額又は当期純損失金額(△)(千円)	△1,201,345	1,693,351
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益金額又は当期純損失金額(△)(千円)	△1,201,345	1,693,351
普通株式の期中平均株式数(株)	35,264,722	38,170,661
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
当期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	—	367,817
(うち新株予約権)(株)	—	367,817
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	—	—

(重要な後発事象)

(資本金および資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分)

当社は、2021年2月12日開催の取締役会において、2021年3月30日開催の第10回定時株主総会に資本金および資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分について付議することを決議しました。

1. 資本金および資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分の目的

繰越利益剰余金の欠損をてん補し、財務体質の健全化を図るとともに、今後の資本政策上の柔軟性及び機動性を確保し、資本構成の最適化を図ることを目的としております。

2. 資本金の額の減少の内容

(1) 減少する資本金の額

会社法第447条第1項の規定に基づき、2020年12月31日現在の資本金の額4,282,242千円のうち1,782,905千円を減少して2,499,337千円とし、減少する資本金の額の全額を、その他資本剰余金に振り替えます。

(2) 資本金の額の減少の効力発生日

2021年3月31日(予定)

3. 資本準備金の額の減少の内容

(1) 減少する資本準備金の額

会社法第448条第1項の規定に基づき、2020年12月31日現在の資本準備金の額4,272,242千円のうち1,782,905千円を減少して2,489,337千円とし、減少する資本準備金の額の全額を、その他資本剰余金に振り替えます。

(2) 資本準備金の額の減少の効力発生日

2021年3月31日(予定)

4. 剰余金の処分の内容

会社法第452条の規定に基づき、資本金および資本準備金の額の減少の効力発生を条件に、当該減少により増加するその他資本剰余金3,565,811千円全額を繰越利益剰余金に振り替え、欠損をてん補に充当いたします。なお、当該振り替え後の繰越利益剰余金は0円となります。

(1) 減少する剰余金の項目及びその額

その他資本剰余金 3,565,811千円

(2) 増加する剰余金の項目及びその額

繰越利益剰余金 3,565,811千円

5. 資本金および資本準備金の額の減少及び剰余金処分の日程

(1) 取締役会決議日 2021年2月12日

(2) 債権者異議申述公告日 2021年2月25日(予定)

(3) 債権者異議申述最終期日 2021年3月25日(予定)

(4) 株主総会決議日 2021年3月30日(予定)

(5) 効力発生日 2021年3月31日(予定)

6. 今後の見通し

本件については、貸借対照表の純資産の部における勘定科目の振替処理に関するものであり、当社の純資産額に変動はなく、業績に与える影響はありません。また、発行済株式総数にも変更はないため、1株当たりの純資産額に変更を生じるものではありません。